

令和6年度 薬学部・大学院医学薬学府（薬学領域）「部局長と学生との懇談会」要旨

テーマ：キャンパスにおけるまなびの環境

～アカデミック・リンクが学生の学びにどのように生きているのか～

実施日時：令和6年10月30日（水） 14時00分～15時00分（1時間）

場所：薬学部大会議室

参加学生数：学部生9名、大学院生5名

参加教職員：小椋研究院長、伊藤(素)学府長、山崎副研究院長（大学院教育委員長）、関根副研究院長、森部副研究院長、中村教務委員長、伊藤(晃)薬学科長（学生生活委員長）、根本薬科学科長、戸田学務課長、渡邊副課長（大学院）、古場副課長（学部）、坂本大学院係主任、西川学務係長、高橋学務係一般職員

学生の意見の詳細は別紙参照

以下、学生の意見発表後の意見交換について（学生の意見：●、教職員の発言：△）

アカデミック・リンクについて

- アカデミック・リンクが実際に設置されている場所は西千葉・松戸キャンパスだけであり、亥鼻キャンパスには存在しない。そのため亥鼻で研究・授業を行う学生は、そもそもアカデミック・リンクを認識していない学生も多く、知っていたとしても実際に利用している学生は少ない。
- △ガイダンスでアカデミック・リンクの紹介動画を周知しているが、周知するだけでなくその場で実際に動画を流すなど、伝え方を検討したい。

学習スペースについて

- 附属図書館（亥鼻分館）には予約制のグループ学習室しかないので、グループディスカッションができるような環境を整えてほしい。薄暗く空気が重い。グループ学習室の予約がオンラインでできないので不便。
- △意見についてアカデミック・リンク・センターと附属図書館（亥鼻分館）へ伝えたい。

あかりんアワーについて

- あかりんアワーを亥鼻キャンパスでも開催してほしい。西千葉キャンパスで開催しても亥鼻キャンパスの学生は参加しにくい。また、アーカイブが残っていないものもある。
- △意見についてアカデミック・リンク・センターに伝えたい。

アカデミック・リンクのオンライン利用について

- オンラインで論文を添削できるサービスがあるといい。
- 閲覧できる電子ジャーナルが年々減ってきている。
- △ネイティブの先生がオンライン同時双方向で添削してくれる「Academic English Consultation」が実施されている。
- △世界中で出版社がジャーナルの価格を釣り上げているため、増やしていくことは難しい。著者への問い合わせにより、リプリントをもらうことができることが多い。また、教員が取り寄せることもできるため、相談いただきたい。

自由テーマ

● 亥鼻キャンパスにはアカデミック・リンクがなく、自由に利用可能な学習スペースや、グループディスカッションができる場所がない。講義棟も 19 時に閉まってしまう。

△ 講義棟 12 を学習スペースとして開放し、講義棟の施錠時間を遅くすることを検討したい。

● 薬学部棟では夏季節電でエレベーターが 1 台しか稼働しないのに、医学部棟では 4 台フルで稼働している。そのほかにも医学部と薬学部で扱いの差があるように感じる。

△ エレベーターは学部ごとに払っており、医学部の状況は把握していないが、薬学部では現状だと節約せざるを得ない。薬学部では獲得した研究費に付随する経費の一部を電気代に充当しているため、今後より多くの研究費を獲得できれば、要望を検討する素地が整うので、是非とも研究に獲得に協力いただきたい。

△ 「扱いに差がある」と感じるのは気持ちの持ちようではないか。グローバルな視点でみると、研究に関してはどの学部出身あるいは在籍しているかは全く関係がない。良い成果は国際的に正当に評価されるので、自分の研究をより良いものにしていくことに注力してほしい。

● 低学年からすると、研究室見学に行く敷居が高い。もっと気軽に見学できるような仕組みが欲しい。見学できる期間を提示してくれると、学生側も見学に行きやすい。

△ 見学対応ができる期間は研究室によって状況が様々なので、一斉に周知することは難しい。既に、一部の学生は主体的に行動している。無碍に対応することはないので、学生から積極的に研究室にアプローチしてほしいし、そのような学修姿勢を期待している。

● 薬学部では数学の授業を開講していないが、カリキュラムに加えた方がよいのではないか。研究室に配属されてから、線形代数や微積がわからずに困った学生が多いように感じる。

△ 学部生は、来年からデータサイエンスが必修になり、データサイエンスの副専攻も始まるため、そちらを活用してほしい。

△ 大学院生は、大学院共通教育科目にも数学の授業がないため、現状としては難しい。一方、同様に数学を薬学教育の中にもっと取り入れた方が良いという意見を持つ教員もいる。具体的な教員名を教えるので、薬学部ではどのような数学を修得すべきなのか、教員と学生とで自習サークルなどを立ち上げて一緒に考えていただきたい。そしてその成果をフィードバックしていただければ、正規の科目に発展させる道筋を考えたい。

総括

△ アカデミック・リンクが進化している背景として、大学教育は「供給者目線」から「学修者目線」に転換していることがあげられる。学生が大学で何を学びたいか、そのために何が必要か、自ら主体的に考え、大学に伝えることが大事である。「学修者本位」ということを心掛けて、学修・研究に邁進してほしい。